

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 12月4日

【評価実施概要】

事業所番号	4270201637		
法人名	特定非営利活動法人つくも福祉グループ		
事業所名	グループホーム 大和		
所在地	〒857-1165 長崎県佐世保市大和町1114番地2 (電話) 0956-34-2666		
評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年11月26日	評価確定日	平成20年1月23日

【情報提供票より】(H19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 7人	非常勤 6人 常勤換算 9,7人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨	造り
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	73歳	最高	101歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	重野内科・大串歯科・平川整形外科・特養チューリップ・老健ひまわり
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人の理念である【その人らしく いきいきと】過ごせるホームを目指され、優しさや笑いが絶えないNPO法人のグループホームである。入居者の自宅復帰を目指した支援を心がけられ、これまでに4人の方が自宅復帰されている。他にも帰る場所のない方には、法人としてかかわれる範囲内で支援されており、その人らしくいきいきとホームとの継続した関係を維持しながら余生を過ごされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画と個別記録は、入居者のあるべき姿に近づこうニーズや潜在性にも配慮した個別具体的なものを心がけられている。又、アセスメントも含めた利用申込書を新しく作られ、本人・家族に記入していただくように変更されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価があることにより、自己評価を全職員で取り組み、話し合いを通して、自らの業務の見直しや検討の機会作りに活かされている。訪問当日も課題や問題意識を持って臨まれていた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	基本的に2ヶ月に1回、運営推進会議を開催されている。討議内容は、ホーム活動内容を軸に質疑応答されており、会議メンバーからの積極的・建設的意見は業務運営の中にも反映されている。又、2ヶ月に1回開催されている町内老人会の活動へのお誘いも受けられている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族などからの意見や不満、要望、苦情など伝えてもらえるよう機会を見ては声かけされたり、意見箱の設置など取り組みをされているが、現状は皆無に等しい状態である。又、家族の伝えにくい心情も充分理解した上で、ホーム独自のアンケートの取り組みを検討されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	可能な限り入居者と職員が連れ立って老人会や夏祭りなど地域行事に見学・参加されている。今後は、出し物の参加など積極的な取り組みも検討されている。又、災害時の協力依頼に対して近所の方からも快諾をいただかれている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の変更は簡単にできないものと心得られており、これまでの理念「清潔で明るく楽しいホーム作りに努力します。質の高い介護を提供します。」に、地域を意識した取り組みとして「地域に愛され、親しまれ、頼りにされる」グループホームを目指され、機会ある度に言葉にされている。この機会に理念の見直し又は、スローガンの作成を検討されている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	既存の建物をリフォームしたホームなので、設備や内装、外観など新築の建物に劣るところは、入居者・職員の笑顔が見られるホームを意識してケアに携わられている。又、入居者に縫ってもらった雑巾などで入居者と職員が毎朝30分かけて掃除に精を出されている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	可能な限り入居者と職員が連れ立って老人会や夏祭りなど地域行事に見学参加されている。今後は、出し物の参加など積極的な取り組みも検討されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価があることにより、自己評価を全職員で取り組み、話し合いを通して自らの業務の見直しや検討の機会作りに活かされている。訪問当日も課題や問題意識を持って望まれている。又、前回の改善課題も、一工夫実践されている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	基本的に2ヶ月に1回、運営推進会議を開催されている。討議内容は、ホーム活動内容を軸に質疑応答されており、会議メンバーからの積極的・建設的意見は業務運営の中にも反映されている。		

グループホーム 大和

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの呼びかけに対する取り組みはされているが、ホームからの積極的アプローチで現場や入居者の課題解決などに向けた協働の取り組みまでに至っていない。		市の多機能性である相談窓口に対して、サービスの取り組みなどホームの実情を伝えられ、ホームの考え方や実態を共有した中で市とともにサービスの質の向上に取り組まれることが期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	インターネット上にホームページを開設されており、家族・関係者の同意を得た上で、行事やエピソードなどの情報を発信されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族などからの意見や不満、要望、苦情など伝えてもらえる機会を見ては声かけされたり、意見箱の設置など取り組まれているが、現状は皆無に等しい状態である。又、家族の伝えにくい心情も十分理解した上で、ホーム独自の家族アンケートの取り組みを検討されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームの形態上、異動はないが離職の場合は、入居者に説明し理解と協力を得られるように努められている。又、新任者の試用期間を3ヶ月とし適合の判断にも時間をかけて離職率の低下に努められている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた外部研修の受講と月1回のホーム内の勉強会で職員の育成に繋がられている。又、職員のスキルアップを目指して該当職員には介護福祉士の資格取得に協力的である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会のブロック会議を通して、業務上の課題や衛生対策など共通性に照らし合わせた勉強会が展開されている。又、交流を通して情報交換などのネットワーク作りも運営に反映されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>短期利用共同生活介護と共用型通所介護の認可を受けられており、今後は連携した取り組みで馴染みながらのサービス提供も意識されている。これまでは、新入居者への声かけやかかわりも意識した中で、入居者の様子や状態など観察を通してホームの雰囲気に馴染んでもらえるよう配慮・工夫されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらかつ喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の経験や趣味などをホーム生活の中に取り入れられて、一人でも多くの出番があるように場面作りをされている。中でも毎朝の掃除は入居者と職員が総出で取り組まれている。新しい入居者も毛糸の編み物で作品作りに精を出されており、職員も指導を仰いでいる。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者との対話を大事にされ、日々の生活の一寸した変化にも観察の目を光らせるよう努められている。又、コミュニケーションが取れない入居者に対しては表情や状態などで判断し、関わりの時間を入念にされ意向の把握に繋がられている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>栄養ケアと身体ケアに関する2本立ての介護計画を作成されている。栄養ケアは食生活にスポットを当てたもので、身体ケアは機能・訓練面にスポットを当てたものである。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>勉強会の際、全職員で担当者を中心に介護計画の見直しをされている。又、個別記録には介護計画と入居者の写真入り葉が挿んであり、日々の記録も介護計画と入居者を意識したもので、日々モニタリングし、入居者のあるべき姿・現状に即した介護計画の見直しを心がけられている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院された場合は、家族に代わって書類手続きから入院時のお世話までホーム職員でされることもある。又、医療連携体制加算の導入をされており、健康管理・医療連携体制の更なる強化を目指されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医の継続受診の支援もさることながら、協力医との医療連携も充分取れており適切な医療受診の支援に努められている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算について全職員の認識が浅く、ホームの対応の指針も明確に定められていない。		利用者が重度化し看取りの必要が生じた場合などにおける対応の指針を定めて、いつでも本人・家族への説明・同意を得られる体制作りが望まれる。更に、状況変化に伴う関係者間の随時の話し合いとその都度の方針の共有も大事にされると、更に良いのではないかと。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	サインや様子で入居者の行動パターンを予測し、さりげない声かけ・誘導で本人の誇りやプライバシーの保持に繋がるような支援を心がけられている。又、記録などの個人情報の取り扱いも慎重にされており、特定の場所に保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なホーム生活パターンに余裕を持って柔軟な対応をされている。【その人らしさ】が発揮できる場面作りは、自然体を重視した環境の提供を心がけられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事作業時には(お手伝いされる方は自由に使ってください)の張り紙とエプロンの入った籠が食堂兼居間の入り口にさりげなく置かれている。エプロンをつけて配膳されたり、隣席の方の世話をされたり、静かではあるが食事を楽しまれている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に、最低2回の入浴支援を心がけられているが、入居者の希望を重視され無理強いはされていない。清拭、足浴、陰部洗浄などの支援も併用されている。		入浴拒否などの言動に対しての受容と共感の姿勢も大切であるが、その先の健康管理や清潔保持の面からの見極めによる支援と入浴が楽しめるような環境づくりが望まれる。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの隣のハイツの2部屋を自宅復帰に向けた生活リハビリや行事・憩い室として活用されている。訪問した日の昼食後も気の合う入居者が広告紙を手に、笑顔で『隣に行ってきます』と職員に声かけされ、職員の見送りを受けていた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩以外にも、ホームまでの車椅子対応の取り付け道の途中に、日当たりの良いテラスがあり、車椅子の方でも手軽に外気浴を楽しめる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の鍵かけはされていない。入居者の動向の把握には細心の注意を払われ、出かけられる時は職員が同行されている。又、玄関のならばに台所があり台所の胸高窓から出入りの様子をうかがう事もできる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者への影響も心配して職員が入居者に扮した非難・救出訓練を年6回開催されている。又、近所の方には、有事の際の協力を依頼され、快諾を受けている。しかし、自然災害に対する取り決めなど不備な点が見受けられる。		入居者参加の状態に応じた訓練も必要ではないだろうか。又、自然災害に関しての手順や持ち出し品リスト、最低限の備蓄品などライフラインの確保に繋がる取り決めが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家族に保健婦の方がおられ、その方に管理栄養プラン作成の指導を仰がれ、職員が入居者一人ひとりの個別具体的な栄養ケア計画(口腔ケアも含む)を作成し、目標・期間を設けて評価・見直しをし、本人の現状にあった栄養ケアを目指されている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や台所、食堂兼リビングは民家風で調度品も家庭的である。2階の廊下の一部はギャラリーになっており入居者の水彩画など作品の展示とソファの設置で癒しの空間にもなっている。壁に【ありがとう あんまりがんばらないで】の優しい文字が掲示されているのが印象的である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見せていただいた居室は、入居者の性格や趣味などが反映された生活感溢れるものである。		